

保育計画成果報告書

法人名	学校法人 山添学園
施設名	みゆきっこ つばめ保育園
報告者（役職）	國里 信治（施設長）
住所・連絡先	大阪市淀川区西中島4丁目10番4号 奥村ビル1階
	☎ 06-6195-2001
	E-mail tubame_hoikuen@ybb.ne.jp

○タイトル（保育計画）

おもわず遊びたくなる保育環境をめざして

○主な助成備品

- ・積み木 ・手先、両手を使う遊びセット ・出し入れ、型はめ遊びセット
- ・ままごとセット ・室内運動遊具 ・おもちゃ棚 等

1. 保育計画策定の目的

当園はオフィス街の中に位置する小規模保育園で、園庭もなく公園までの距離も遠いので0～2歳児ということもあり園内で過ごす時間が長い実情がありました。

室内でも身体を動かして遊びたいという当然の欲求とおもちゃが少なかったことから、走り回ったり戦いごっこをしたりすることで発散していた子どもたちに、室内でも楽しく安全に身体を使って遊びたいという欲求を十分に満たせる遊びをさせてあげたい。さらに園での安心できる落ち着いた雰囲気の中で日々の遊びを通して、充実感・満足感を味わい、工夫することや考えることを体験してほしいという思いから保育計画を策定し、室内運動遊具、積み木セット、手先、両手を使う遊びセット、ままごとセット、アナログゲームセット等の遊具を購入いたしました。



助成備品購入前の園内環境



助成備品購入後の園内環境

2. 具体的な実施内容

・部屋でも十分に体を使って遊ぶ

ミニトップや、デコボコバランス平均台と、今あるマットやトンネルを合わせて利用して遊ぶことで遊びの中で抗重力筋を使ったり、バランスをとる遊びを通じて脳の前庭系を使ったりして遊びの中で自然に力を付けられるようにしました。また天候や気温に左右されることなく室内でも体を使った遊びができるようになり、身体を動かしたい子どもが十分に発散できるようにしました。

また、まだ歩行が不安定な子に対しては、歩きたくなる気持ちを促す手押しメリーゴーランドで遊び、ミニトップなどバランス感覚を使った遊びを通して、安定した歩行を獲得できるようにしました。



・五感を刺激するおもちゃで遊ぶ

五感を使うおもちゃ（視覚：くねくねバーン、ボールトラック・ローリー、聴覚・触覚：ミュージカルエッグ、クローストイ・ワンダーダイス）で遊び、おもちゃを通じて意識的ではなく自然と色々な五感が刺激されるようにしました。



・積み木で遊ぶ

さまざまな積み木を使い子どもが自由に遊ぶことから始め、それから保育士がモデルになって遊ぶことで子どもが遊びをイメージするきっかけを作り、積み木を並べたり、積んだり、見立てたりして遊びを展開できるように計画しました。子どもの遊ぶ様子を見ながら保育士が援助をしたり、見守ったりして構成遊びの楽しさを感じられるように意識をして関わりました。

- ・粗大運動から微細運動へ

前述の通り園内でも十分に体を動かして遊ぶ工夫をして粗大運動も取り入れながら、手首や指先もおもちゃでの遊びを通じて器用に使えるようになってほしいと考え、ペグ刺し、ヒモ通し、ねじ遊びなど、微細運動も促すことが出来る遊びも取り入れました。

- ・ルールのある遊びを通じて

簡単なルールのゲーム、果樹園・テンポかたつむり・ことばカード・ペアカードなどで、保育士がルールを丁寧に伝えながら繰り返し遊ぶことで徐々にルールを理解し、順番を守る事やルールを守ることで、楽しむことが出来る遊びの経験を重ねられるようにしました。

3. その成果と評価

- ・部屋でも十分に体を使って遊ぶ

室内でも粗大運動を取り入れたサーキットを行ったり、ミニトップなどで遊んだりすることで、身体を動かしたい欲求を満たす事が出来、落ち着いて遊ぶことが増えたことと、ミニトップやデコボコバランス平均台での遊びで、脳の前庭系が鍛えられバランス感覚が養われ転倒することも減ったことが成果として感じられました。

- ・五感を刺激するおもちゃで遊ぶ。

くねくねバーンやボールトラック・ローリー、ストレートドミノで繰り返し遊ぶ中で徐々に、転がるボールや車、倒れるドミノを追視できるようになっていく姿が見られました。ミュージカルエッグ、クローストイ・ワンダーダイスなどでの遊びは、木の感触や様々な布のつるつるやザラザラといった感触を肌で感じることに加え、鈴の音やダイヤルを回す音や、マラカスのような音など様々な音が鳴ることも耳で楽しみながら遊んでいて、子どもたちなりに新たな発見をして世界を広げ、自ら動かす意志や探究心の芽生えを感じました。五感を刺激して遊べるおもちゃを選んだことは乳児期の子どもにとって、とても良い経験につながることを実感しました。

- ・積み木で遊ぶ

積み木で遊び始めてすぐの頃は、積んでもすぐに崩れてしまう積み木に飽きてしまう姿が見られていましたが、保育者と一緒に積み木を積んだり、崩したり簡単な遊び方を繰り返すうちに、自分で遊び始めて自分なりに“できた！”と思えた時には「せんせい、ほら！」と達成感を感じている様子も見られました。





さらに、2歳児の後半になると積み上げるだけでなく積み木で囲いを作って動物園を作ったり、積み木をベッドや椅子・建物に見立てて家の中を再現したり、街を作ったりして数人の友達とイメージの世界での会話を楽しんだりする姿も増えました。

・粗大運動から微細運動へ

ペグ刺しもヒモ通しもねじ遊びも月齢が低いうちは特に難しそうにする姿が目立ちましたが、チャレンジすることが楽しいようでやってみようとする姿が見られました。保育士の予想以上に集中する姿もしばしば見られ、子どもの集中力には驚かされました。



・ルールのある遊びを通じて

果樹園・テンポかたつむり・ことばカード・ペアカードなどでの遊びの中で、サイコロを振ったり、カードをめくったりするのに順番を守るようになっていく姿が見られました。子どもだけで遊ぶと途中で順番やルールが分からなくなることがあるものの、保育士が絶対に居ないと遊べないという事もなくなってきて、子どもたちなりに遊び始める姿も見られてきました。繰り返し遊ぶことでルールを理解していく子どもの姿は2歳児とはいえ頼もしくも感じます。

自分たちより小さいお友達には子どもたちなりにルールを伝えようとすることもあり、おもちゃを通じて関わりあうことが、子どもにとっていかに大きな経験になるかを改めて感じました。



4. 今後の課題と展望

今回助成して頂いて備品を購入し環境を見直した成果として『おもわず遊びたくなる保育環境をめざして』と言う当初思い描いていた目標におおむね近づく事が出来たと思います。しかし保育の質の向上という観点で、まだまだ子どもの発達の理解、遊びの姿を観察する力、保育の計画力等の点で多くの課題が見えてきました。引き続き、研鑽を積んで、子どもたちが『もっと遊びたくなる保育環境をめざして』職員で力を合わせていきたいと思えます。

以上